



サービス プロファイル

- [ACL IPv4](#) (1 ページ)
- [DHCP サーバ](#) (2 ページ)
- [オブジェクトトラッカー](#) (4 ページ)
- [オブジェクトトラッカー グループ](#) (5 ページ)
- [ルート ポリシー](#) (5 ページ)
- [VRF](#) (6 ページ)
- [IPv4/IPv6 スタティックルートサービス](#) (11 ページ)

ACL IPv4

次の表では、ACL IPv4 機能を設定するためのオプションについて説明します。

フィールド	説明
ACL Sequence Name	ACL シーケンスの名前を指定します。
Standard	標準 ACL は、IP パケットの送信元アドレスと ACL に設定されているアドレスを比較して、トラフィックを制御します。
Extended	拡張 ACL は、IP パケットの送信元アドレスおよび宛先アドレスを ACL に設定されているアドレスと比較して、トラフィックを制御します。
Add ACL Sequence	IP パケットに適用される許可および拒否条件を集めたものです。
Import ACL Sequence	デバイスへの ACL シーケンスのインポート。
Drop or Accept	一致が存在するかどうかに応じて実行するアクション。
ACL シーケンスの編集	
ACL Sequence Name	ACL シーケンスの名前を入力します。
Source Address	IP パケットの送信元アドレス

フィールド	説明
Source Address Host	単一の送信元アドレスホスト
Action Type	デフォルト値は accept です
Accept Actions	標準 IP アクセスリストによって許可または拒否されたパケットに関するメッセージを記録するログをドロップダウンリストから選択します。

[ACL Policy] ウィンドウで特定の ACL シーケンスを選択して、編集、削除、または追加できます。



(注) トランスポートプロファイルおよびサービスプロファイルの設定グループから **ACL ポリシー** 機能を設定することもできます。

DHCP サーバ

この機能を使用すると、インターフェイスを DHCP ヘルパーとして設定して、DHCP サーバーから受信したブロードキャスト DHCP 要求を転送することができます。

この機能のデフォルト値を持つ各パラメータでは、範囲が [Default] に設定され（チェックマークで示される）、デフォルト設定またはデフォルト値が表示されます。デフォルト値を変更するか、値を入力するには、パラメータフィールドの左側にある [Scope] ドロップダウンをクリックし、次のいずれかを選択します。

基本設定

フィールド	説明
Address Pool	ルータインターフェイスが DHCP サーバーとして機能するサービス側ネットワークのアドレスプールの IPv4 プレフィックス範囲を、 prefix/length の形式で入力します。
Exclude	DHCP アドレスプールから除外する 1 つ以上の IP アドレスを入力します。複数の個別のアドレスを指定するには、それらをカンマで区切ってリストします。アドレスの範囲を指定するには、ハイフンで区切ります。
Lease Time(seconds)	DHCP によって割り当てられた IP アドレスが有効である時間を指定します 範囲：60 ~ 31536000 秒 デフォルト：86400

静的リース

フィールド	説明
Add Static Lease	
MAC Address	静的 IP アドレスが割り当てられるクライアントの MAC アドレスを入力します。
IP	クライアントに割り当てる静的 IP アドレスを入力します。

DHCP オプション

フィールド	説明
Add Option Code	
Code	オプションコードを設定します。 範囲：1 ～ 254
Type	次の 3 つのタイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [ASCII]：ASCII 値を指定します。 • [Hex]：16 進値を指定します。 • [IP]：IP アドレスを指定します。最大 8 つの IP アドレスを指定できます。

Advanced

フィールド	説明
Interface MTU	インターフェイス上のパケットの最大 MTU サイズを指定します。 範囲：68 ～ 65535 バイト
Domain Name	DHCP クライアントがホスト名を解決するために使用するドメイン名を指定します。
Default Gateway	サービス側ネットワークのデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。
DNS Servers	サービス側ネットワークの DNS サーバーの IP アドレスを 1 つ以上入力します。複数のエントリがある場合は、カンマで区切ります。最大 8 つのアドレスを指定できます。

フィールド	説明
TFTP Servers	サービス側ネットワークの TFTP サーバーの IP アドレスを入力します。1 つまたは 2 つのアドレスを指定できます。2 つの場合、アドレスはカンマで区切ってください

オブジェクトトラッカー

トラッカー機能を使用すると、トラッカーエンドポイントのステータスを追跡できます。

次の表では、オブジェクトトラッカー機能を設定するためのオプションについて説明します。

基本設定

パラメータ名	説明
名前 (Name)	トラッカーの名前。名前には 128 文字以内の英数字を使用できます。最大 8 つのトラッカーを設定できます。
Description	オブジェクトトラッカーの説明を入力します
Object Tracker ID	オブジェクトトラッカーの名前
Interface Name	グローバルまたはデバイス固有のトラッカーインターフェイス名を入力します (例: Gigabitethernet1、Gigabitethernet2)。
Interface Track Type	トランスポート インターフェイスがダウンしていると宣言する前に、プローブが応答を返すのを待機する時間。範囲: 100 ~ 1000 ミリ秒。デフォルト: 300 ミリ秒。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • Line-protocol • Ip-routing • Ipv6-routing
Route IP	ネットワークのルート IP プレフィックス
Route IP Mask	ネットワークのサブネットマスク
VRF Name	ルート到達可能性を追跡するためのベースとして使用される VRF 名
Delay Up (Seconds)	追跡対象オブジェクトまたはオブジェクトのリストの UP ステータスが通信されるまでの遅延を 0 ~ 180 秒の範囲で設定します。
Delay Down (Seconds)	追跡対象オブジェクトまたはオブジェクトのリストの Down ステータスが通信されるまでの遅延を 0 ~ 180 秒の範囲で設定します。

オブジェクトトラッカーグループ

この機能を使用して、オブジェクトトラッカーグループを設定します。正確なトラッキングのため、オブジェクトトラッカーグループを作成する前に、少なくとも2つのオブジェクトトラッカーを追加してください。

基本設定

パラメータ名	説明
Object tracker ID	オブジェクトトラッカーグループのIDを入力します。 範囲：1～1000
Object tracker	ドロップダウンリストから、以前に作成したオブジェクトトラッカーを2つ以上選択します。
Reachable	次の値のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Either：トラッカーグループの関連付けられたトラッカーのいずれかでルートがアクティブであると報告された場合に、トランスポートインターフェイスのステータスがアクティブと報告されるようにします。 • Both：トラッカーグループの関連付けられたトラッカーの両方でルートがアクティブであると報告された場合に、トランスポートインターフェイスのステータスがアクティブと報告されるようにします。
Delay Up (Seconds)	追跡対象オブジェクトまたはオブジェクトのリストのUPステータスが通信されるまでの遅延を0～180秒の範囲で設定します。
Delay Down (Seconds)	追跡対象オブジェクトまたはオブジェクトのリストのDownステータスが通信されるまでの遅延を0～180秒の範囲で設定します。

ルートポリシー

特定の packets を明らかに最短のパス以外の特定のパス経由でルーティングする必要がある場合は、この機能を使用してポリシーベースルーティングを設定します。

次の表では、ルートポリシー機能を設定するためのオプションについて説明します。

フィールド	説明
Routing Sequence Name	ルーティングシーケンスの名前を指定します。

フィールド	説明
Protocol	インターネットプロトコルを指定します。オプションは、[IPv4]、[IPv6]、またはその両方です。
Condition	ルーティング条件を指定します。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • アドレス • AS パスリスト • コミュニティ リスト • 拡張コミュニティリスト • BGP ローカルプリファレンス • Metric • Next Hop • インターフェイス • OSPF タグ
Action Type	アクションタイプを指定します。オプションは、[Accept] または [Reject] です。
Accept Condition	受け入れ条件タイプを指定します。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • AS パス • コミュニティ • ローカルプリファレンス • Metric • Metric Type • Next Hop • 発信元 • OSPF タグ • 重量

VRF

DNS

次の表では、管理 VRF 機能を設定するためのオプションについて説明します。

フィールド	説明
VRF Name	VRF の名前を入力します。
RD	VRF のルート識別子を指定するか、システムデフォルトを使用します。 ルート識別子は、プロバイダーに接続するお客様の個別の仮想プライベートネットワーク ルートを区別するのに役立ちます。
DNS	
IP Address	この VRF のプライマリ DNS サーバーの IP アドレスを入力します。 この IP アドレスは、Cisco SD-WAN Validator のホスト名を解決するために使用されます。

ホストマッピング

フィールド	説明
新規ホストマッピングの追加	
Hostname	DNS サーバーのホスト名を入力します。最大文字数は 128 文字です。
List of IP	ホスト名に関連付ける IP アドレスを入力します。エントリはカンマで区切ります。

Route

フィールド	説明
IPv4スタティックルートの追加	
Network address	IPv4 アドレスまたはプレフィックスを 10 進数の 4 点ドット表記で入力して、VRF を設定します。
Subnet Mask	プレフィックスや IP アドレスのサブネットマスクを入力します。サブネットマスクはドロップダウンリストからを選択することもできます。

フィールド	説明
Gateway	<p>次のいずれかのオプションを選択して、ネクストホップがスタティックルートに到達するように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Next Hop] : このオプションを選択して [Add] をクリックすると、次のフィールドが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [Address] : ネクストホップIPv4アドレスを指定します。 • [Administrative distance] : ルートのアドミニストレーティブディスタンスを入力します。 • オブジェクトトラッカー/オブジェクトトラッカーグループ <p>オブジェクトトラッキングは、クライアントによって設定された別のオブジェクトでオブジェクトが実行するクライアントアクションをトラッキングするメカニズムです。トラッキング対象の各オブジェクトは、track パラメータで指定される一意の名前で識別できます。</p> <p>ドロップダウンリストからオブジェクトを選択します。</p> • [Null 0] : このオプションを有効にすると、ネクストホップが null インターフェイスに設定されます。このインターフェイスに送信されたすべてのパケットは、ICMP メッセージを送信せずにドロップされます。 <ul style="list-style-type: none"> • [Administrative distance] : ルートのアドミニストレーティブディスタンスを入力します。 • dhcp <ul style="list-style-type: none"> • [Administrative distance] : ルートのアドミニストレーティブディスタンスを入力します。 • [Interface] : [Add] をクリックして、次の詳細を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Interface Name] : 有効なインターフェイスを指定するか、ドロップダウンリストから値を選択します。 • [Add Next Hop] : <ul style="list-style-type: none"> • [Address] : ネクストホップIPv4アドレスを指定します。 • [Administrative distance] : ルートのアドミニストレーティブディスタンスを入力します。
IPv6 スタティックルート	

フィールド	説明
Prefix	IPv6 アドレスまたはプレフィックスを 10 進数の 4 点ドット表記で入力し、VRF で構成する IPv6 スタティックルートのプレフィックス長を入力します。
Gateway	次のいずれかのオプションを選択して、ネクストホップがスタティックルートに到達するように設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Next Hop] : このオプションを選択して [Add] をクリックすると、次のフィールドが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [Address] : ネクストホップ IPv4 アドレスを指定します。 • [Administrative distance] : ルートのアドミニストレーティブディスタンスを入力します。 • [Null 0] : このオプションを有効にすると、ネクストホップが null インターフェイスに設定されます。このインターフェイスに送信されたすべてのパケットは、ICMP メッセージを送信せずにドロップされます。 <ul style="list-style-type: none"> • [Administrative distance] : ルートのアドミニストレーティブディスタンスを入力します。 • [Interface] : [Add] をクリックして、次の詳細を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Interface Name] : 有効なインターフェイスを指定するか、ドロップダウンリストから値を選択します。 • [Next Hop] : <ul style="list-style-type: none"> • [Address] : ネクストホップ IPv4 アドレスを指定します。 • [Administrative distance] : ルートのアドミニストレーティブディスタンスを入力します。

NAT

NAT	
NAT Enable	トグルボタンを使用して NAT を有効にする。
Add NAT Interfaces	インターネット側のインターフェイスを追加します。
Static NAT	静的 NAT マッピングを追加します。
Static NAT Subnet	NAT マッピングのサブネットを定義します。

NAT Port Forward	NAT ポート フォワーディング ルール
Dynamic NAT	ダイナミック NAT ルールを定義しま

ルートルーク

グローバル VRF からのルートルーク	
Route Protocol	表示されるオプションから、グローバル VRF から設定中のサービス VRF にルートをリークするプロトコルを選択します。
Select Route Policy	ドロップダウンリストからルートポリシーを選択します。
再配布 (VRF)	
Protocol	表示されるオプションから、リークされたルートを再配布するプロトコルを選択します。
Select Route Policy	ドロップダウンリストからルートポリシーを選択します。
グローバル VRF へのルートルーク	
Route Protocol	表示されるオプションから、設定中のサービス VRF からグローバル VRF にルートをリークするプロトコルを選択します。
Select Route Policy	ドロップダウンリストからルートポリシーを選択します。
再配布 (グローバル VRF)	
Protocol	表示されるオプションから、リークされたルートを再配布するプロトコルを選択します。
Select Route Policy	ルートポリシーの名前を入力します。
他のサービス VRF からのルートルーク	
Source VRF	送信元 VRF の値を入力します。
Route Protocol	表示されるオプションから、送信元のサービス VRF から設定中のサービス VRF にルートをリークするプロトコルを選択します。
Select Route Policy	ドロップダウンリストからルートポリシーを選択します。
再頒布 (サービス VRF)	
Protocol	表示されるオプションから、リークされたルートを再配布するプロトコルを選択します。
Select Route Policy	ドロップダウンリストからルートポリシーを選択します。

IPv4/IPv6スタティックルートサービス

IPv4/IPv6 スタティックルート

フィールド	説明
IPv4スタティックルートの追加	
IP Address*	IPv4 アドレスまたはプレフィックスを 10 進数の 4 点ドット表記で入力し、VPN で構成する IPv4 スタティック ルートのプレフィックス長を入力します。
Subnet Mask*	サブネット マスクを入力します。
Gateway*	次のいずれかのオプションを選択して、ネクストホップがスタティックルートに到達するように設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • [nextHop] : このオプションを選択して [Add Next Hop] をクリックすると、次のフィールドが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [Address]* : ネクストホップ IPv4 アドレスを入力します。 • [Administrative distance]* : ルートのアドミニストレーティブ ディスタンスを入力します。 • [dhcp] • [null0] : このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [Administrative distance] : ルートのアドミニストレーティブ ディスタンスを入力します。
IPv6 スタティックルートの追加	
Prefix*	IPv6 アドレスまたはプレフィックスを 10 進数の 4 点ドット表記で入力し、VPN で構成する IPv6 スタティック ルートのプレフィックス長を入力します。

フィールド	説明
Next Hop/Null 0/NAT	<p>次のいずれかのオプションを選択して、ネクストホップがスタティックルートに到達するように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Next Hop] : このオプションを選択して [Add Next Hop] をクリックすると、次のフィールドが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [Address]* : ネクストホップ IPv6 アドレスを入力します。 • [Administrative distance]* : ルートのアドミニストレーティブディスタンスを入力します。 • [Null 0] : このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [NULL0*] : このオプションを有効にして、ネクストホップを null インターフェイスに設定します。このインターフェイスに送信されたすべてのパケットは、ICMP メッセージを送信せずにドロップされます。 • [NAT] : このオプションを選択すると、次のフィールドが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • [IPv6 NAT] : NAT64 または NAT66 を選択します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。